

第二次新まちづくり計画で現在の中央体育館を改築するべく事業計画の策定や調査を実施する予定である。

アニマルファミリー制度

青山 浪子(公明党)

問 昨年三月に策定された札幌市円山動物園基本構想の中で、これまでのように「動物園が飼育している動物を見に行く」のではなく、「動物園に預かってもらっている動物に会いに行く」という、あたかも動物の里親や家族になつたような関係性への転換を提案している。これが「アニマルファミリー制度」で、ファミリーが餌代などを負担するのに対し、動物園からはファミリーとなった動物の情報提供されるものである。

答 ボランティア活動については、従来からの動物解説のほか、イベントの企画運営に市民や企業が直接参加してさまざまな活動を展開しており、なかには小学生による解説看板の制作も行われるなど活動する方の年齢層も徐々に拡大している。また、年末年始に開催したワイルドマウス展は、円山動物園と酪農学園大学、NPO法人霧多布湿原トラストが連携してネズミの捕獲から展示、解説までを協働で実施したもので、今後の研究も三者で連携して行うこととしている。



「み問題」
坂本 恭子(共産党)
問 レジ袋削減をスリムシティイさっぽろ計画の数値目標とともに位置付けるべきと思うが、いかがか。また、市としても、スーパーや地元商店と協力して、レジ袋削減の運動を推進していくことに力を入れていくべきと考えるが、いかがか。

答 レジ袋の削減については、店舗や事業者によるレジ袋削減に向けた取り組みをより一層促進していくという観点から、新たに計画へ加えることを検討している。有料化とその収入を財源とした雑がみ分別収集は一体の

ものと考えている。有料化の実施については、市民意見交換会などでさまざまな意見を踏まえて、本年度中に決定する計画の中で最終的な結論を出したいと考えている。



福祉政策

坂 ひろみ(市民ネット)

答 平成十七年からは、生きがい活動や地域貢献活動などの拠点を運営する高齢者団体に対する支援を実施している。今後、高齢者の活動や交流などの機能を持った、利用しやすい場づくりのための支援を積極的に行っていきたい。発達障がい児への支援は、これまでの事業を通じて、各機関の対応能力の向上などが図られてきた。今後は、さらにライフステージごとにかかわる機関が変わっても、一貫した支援が継続できるよう、具体的な方策の検討を進めていく。親の会などの参加については、これからもより一層、主体的な参加を促進していきたいと考えている。

問 高齢者が気軽に立ち寄り、交流できるような居場所づくりの活動を進める市民団体などに対し、行政が積極的に、学校の空き教室や商店街の空き店舗などの場の提供や、コーデイネート支援をすることが求められると考えるが、いかがか。

問 プロスポーツは、街に活気を、子供たちには夢を与えるばかりか、経済の活性化に



プロスポーツの支援

宝本 英明(民主党・市民連合)